



## 鳥取市総合教育センターだより

第5号 令和7年3月17日発行

〒680-0053  
鳥取市寺町 150 番地  
TEL 0857-36-6060  
FAX 0857-26-3878  
E-mail  
kyo-center@city.tottori.lg.jp

### 出会いを学びに

所長 中村 礼子

春風に乗って、桃の香りがふわりと漂ってきました。今年例年になく雪が遅くまで残り、総合教育センターでも2月まで除雪作業に追われました。それでもふと見上げると、玄関前の櫛の木には芽が付き、膨らんできており、春の息吹を感じます。



総合教育センターが運営するサポートルーム「すなはま」では、3月19日（水）に「修了式」を迎えます。本年度も、通所している児童生徒は、それぞれのめあてに向かって自主学習や体験活動に取り組み、たくさんの人やもの・ことと出会う中で、着実に成長してきました。「体験活動」では、児童生徒の社会的自立をめざし、高齢者や幼児との交流、すなはま農園での野菜栽培・調理実習、梨狩り体験、太閤ヶ平ハイキング、茶道体験や鳥取大学での科学実験など、さまざまな活動を行っています。そこには、いつも児童生徒にそっと寄り添う教育指導員の姿がありました。児童生徒は、温かい見守りの中で安心して人々と触れ合い、自然に触れ、感動体験を重ねる中で、会話が生まれ笑顔が生まれました。

「修了式」では、1年間の児童生徒の活動の姿を動画で振り返りながら、保護者の皆様や関わってくださった皆様といっしょに一人一人の成長を確かめ合い、喜び合いたいと考えています。それぞれが、自分なりの学びの場でこれからも一步一步進んでいくことを願ってやみません。

もうすぐ春を迎えます。児童生徒にとっても、教職員にとっても、新しい出会いが待っています。開花を待つ新芽のように、みんなわくわくしていることと思います。来年度もすべての児童生徒や教職員にとって、一つ一つの出会いが明日の学びにつながることを心より願っています。

本年度も、各関係の皆様には多大なるご理解とご支援を賜り、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。総合教育センターが、学び続ける教師のために また児童生徒支援のために、より身近な存在となるよう、新年度に向けて、しっかりと準備を整えてまいります。

本年度も皆様の御理解と御協力のおかげで、全ての教職員研修を無事実施することができました。ありがとうございました。

本年度も、教職員研修をさらによりよいものとするを目的に、教職員研修アンケートを実施しました。アンケート項目は、「鳥取市教職員研修ガイド」に掲載している研修目標1～3に対して実践を振り返っていただく形で設定しました。アンケート結果からは、特に自己有用感の育成に関する設問で肯定的な回答が高くなりました。また、特にミドルリーダーである中堅を中心に、Myアイデアシートを使うなどして研修と学校とをつなぐ取組を提案したり実践したりしている先生方も増えています。

今後も、アンケートで皆様からいただいた貴重な御意見をもとに、教師力アップ・学校力アップをめざした教職員研修を実施していきます。来年度もどうぞよろしくお願ひします。

## 1 成果指標に関して

項目(1)①②、2①・② 4段階評価(青:できた 緑:ややできた 黄:あまりできなかった 赤:できなかった)

項目(2)③④、3①②③ 2段階評価(青:できた 赤:できなかった)

### (1) 成果指標1について

重点項目	設問	目標値	令和6年度結果(数値は肯定的評価)
自己有用感の育成	① 児童生徒が豊かなかかわりの中で自分や周りの人のよさに気づくような手だてを講じたか	96%	95.1%
	② 学校生活アンケート等を活用して相談活動や早期対応に活かしたか	90%	96.6%

### (2) 成果指標2について

学力向上	① 学習意欲を高めるために、前時の振り返りから児童生徒と共に具体的なめあてづくりを行ったか	80%	78.9%
	② 学習内容の定着を図るための時間を、毎時間設定していたか	90%	90%
ICT活用	③ ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けた	90%	87.5%
	④ ICT機器の活用場面を意識した授業づくりに努めた	90%	86.2%

### (3) 成果指標3について

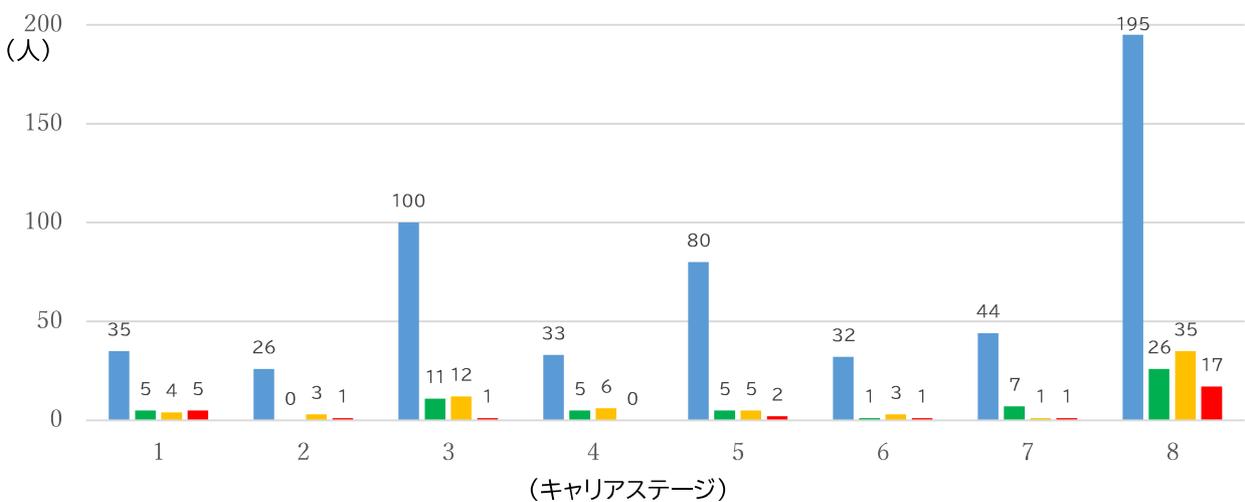
Myアイデアの活用	① Myアイデアを自分の業務に活かそうとしたか	92%	90.2%
	② Myアイデアを職場で共有し、活用しようとしたか	70%	68.9%
学校力アップのための推進力強化	③ 学校力アップにつながる案を管理職に提案したか ※6年目・中堅教諭のみ	50%	34.6%
	④ 学校力アップにつながる案を分掌会、プロジェクトチーム等に提案したか ※6年目・中堅教諭のみ	50%	53.1%

## 2 ICTの活用について

(1) 設問⑥「ICT機器の活用場面を意識した授業づくりに努めたか」と、  
設問⑤「ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けたか」を  
クロス集計した結果



(2) (1) のクロス集計結果をキャリアステージごとに集計



- |                            |                                   |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1 キャリアスタート期(定数内講師・養護助教諭)   | 5 向上期(6~10年目)* 6年目研修受講者を除く        |
| 2 初任者・新規採用養護教諭             | 6 中堅教諭等資質向上研修受講者                  |
| 3 育成期(1~5年目)* 初任者・新規採用者は除く | 7 充実期前半(11~年目)* 中堅教諭等資質向上研修受講者は除く |
| 4 6年目研修受講者                 | 8 充実期後半(16年目以降)* 16年目研修受講者は除く     |

## 3 MYアイデアの共有等について(6年目・中堅教諭のみ) 2段階評価(青:できた 赤:できなかった)

設問	目標値	令和6年度結果		
		できた	できなかった	
③ 学校力アップにつながる案を管理職に提案したか	50%	中堅	46%	54%
		6年目	25%	75%
④ 学校力アップにつながる案を分掌会、プロジェクトチーム等に提案したか	50%	中堅	62.2%	37.8%
		6年目	45.5%	54.5%

# 令和6年度 教職員研修アンケート（結果と考察）

## 1 成果指標に関して

### <結果>

#### （1）成果指標1について

- ・自己有用感の育成に関する1-②の設問では肯定的回答が高く、特に、学校生活アンケートの活用については目標値（90%）を大きく上回り、96%を超えました。昨年度と比較しても、1-②の肯定的回答が1.1%、1-①が12.6%増加しています。

#### （2）成果指標2について

- ・学力向上に関する項目では、2-②の設問の肯定的回答は78.9%で、目標値の80%には届かなかったものの、キャリアステージが上がるごとに肯定的回答が段階的に向上していました。
- ・ICT機器の活用場면을意識した授業づくりに努めたとの回答は86%を超え、昨年度より約6%向上しました。

#### （3）成果指標3について

- ・Myアイデアの活用や学校力アップのための推進力強化に関する項目では、Myアイデアシートを自分の業務に活かそうとしたとの回答が9割を超えました。また、6年目、中堅教諭等資質向上研修受講者のみに実施した「学校力アップにつながる案を分掌会、プロジェクトチーム等に提案したか」との設問では、「できた」との回答が昨年度と比較して2割以上増加しました。

### <考察>

- ・1-②は、キャリアステージごとに回答結果を見てみると、育成期から中堅教諭等資質向上研修受講者にかけて肯定的回答が高くなりました。教職経験の少ない育成期から向上期も、児童生徒同士の豊かなかかわり合いのある学校・学級づくりに意欲的に取り組んでいることが分かります。
- ・②-1では、学習展開の中で「めあて」と「振り返り」を大切にしたい授業づくりをすすめていることが分かります。今回のアンケートでは、2-②の項目について、キャリアステージが上がるごとに肯定的回答の割合が高まっていることが分かりました。2-②の項目では、9割が学習内容の定着を図るための時間を設定したと回答していました。このことから、各学校の取組や研修の中で、授業づくりについて共通理解が図られ、共通実践がなされていることが分かります。
- ・本市では、教職員研修でMyアイデアシートを活用し、主体的に研修を受講したり、学校にアイデアを持ち帰り実践したりできるようにしています。また、研修内で他の受講者とMyアイデアを実際にどのように活用したかを共有したり、研修で学んだことがどのようなことに活かそうかを考えたりすることで、業務に活かそうとする意欲と実践につながっているものと考えます。

## 2 ICTの活用について

### <結果>

- ・9割近い学校でICTに関する研修が実施されていました。
- ・ICT研修を受講した教職員の方が、受講していない教職員よりもICT活用場면을意識した授業づくりに努めたと回答する割合が高くなりました。（77.7% 対 8.5%）
- ・キャリアステージ別にみると、充実期後半（採用16年目以降）の教職員はICT活用場면을意識した授業づくりに努められなかったと回答する割合が比較的高く、そのうち研修を受講しなかった教職員は17人、研修を受講したが活用できなかった教職員は35人でした。

#### <考察>

- ・ICT活用研修は、教職員がICT活用場面を意識した授業づくりに努める上で有効であると考えられます。
- ・充実期後半の教職員は、長年の経験から自身の指導方法が確立されている場合があり、ICTの活用に抵抗がある、あるいは研修で得た知識を自身の授業に活かしきれていない可能性があります。
- ・今後は、個々の教職員のニーズやキャリアステージに応じたICT研修の提供に加え、研修で得た知識を実際の授業でどう活用するのか、具体的な指導方法や事例を共有する研修も必要だと考えています。

### 3 Myアイデアの共有等について（6年目・中堅教諭のみ）

#### <結果>

- ・3-⑥の設問では、特に中堅教諭の肯定的回答の割合が62.2%であり、令和6年度の目標値50%、令和5年度の55%と比較しても大幅に向上しました。
- ・Myアイデアを共有した相手としては、管理職、研究主任、学年主任、教科主任が多く、学年会やメンターチームに提案したとの回答が多く見られました。

#### <考察>

- ・中堅教諭は、校内で中核となる分掌を担っている場合が多く、ミドルリーダーとしての自覚をもって研修に臨んでいることが分かります。そのため、研修で得た学びを、自身の指導力向上だけでなく、学校全体の改善に活かそうと積極的にMyアイデアを提案していると考えられます。
- ・「Myアイデアシート」を活用し、研修で学んだことを学校運営にどのように活かすか具体的に考える機会を研修の中に位置づけたことで、学校力アップにつながる案を分掌会やプロジェクトチーム等に提案する割合が向上したと考えられます。
- ・Myアイデアを共有する相手として、管理職や学年主任、教科主任等、校内の意思決定に関わる立場の人が多くことから、中堅教諭が学校運営により積極的に参画しようと努めている姿勢がうかがえます。

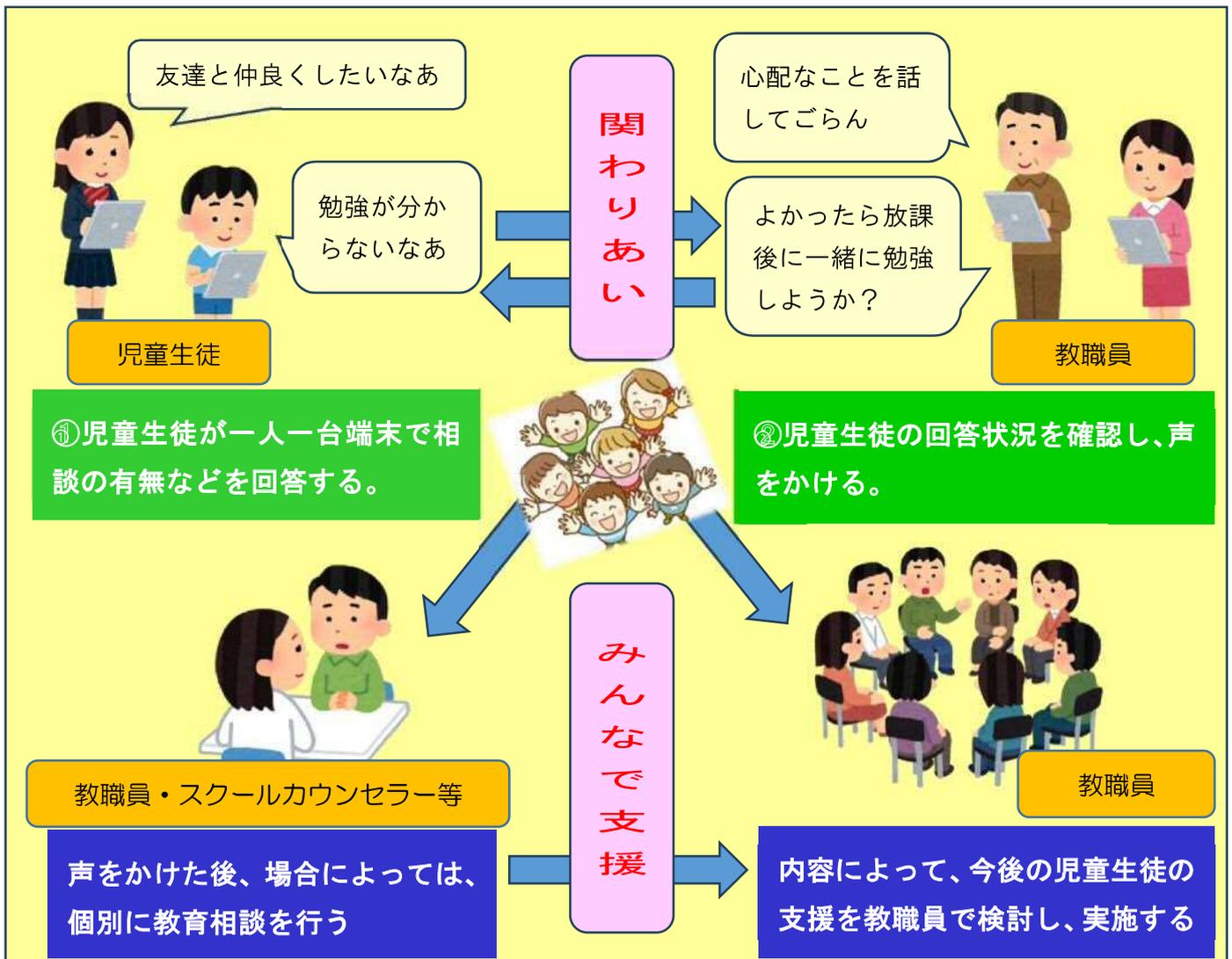
### 4 今後の展望

- ICT活用は、学習意欲の向上や個別指導の充実において不可欠な要素となっており、「使う」段階から「効果的に活用する」段階へと変換しています。一方、スキルの差や苦手意識がある教職員も一定数いることから、スキルやニーズに応じて受講できる研修を提供し、学校現場での活用事例等を共有することで、授業改善や校務効率化を促進していきたいと考えています。
- 中堅教諭等資質向上研修は、ミドルリーダーとしての役割を自覚し、自身のキャリア形成や学校の実態に応じて、主体的に研修を受講したり、校内外で実践したりできるように、研修内容・回数を精選します。具体的には、引き続きOJTの推進を図りながら、校務分掌を通して学校運営に参加したり、研修で得た知識を学校現場に還元したりすることができるように研修内容を変更する予定です。
- コラボ研修については、異なるキャリアステージや分掌の教職員が、多様な視点から学校課題を検討し、組織的な課題解決を促進する良さがありますが、同じ時間帯に複数の教職員が研修を受講することによって学校運営に影響を及ぼすこともありました。そこで、夏季休業中などを活用し、学校運営への影響を最小限に抑えながら、共通の課題意識をもった教職員が参加しやすい研修機会を担保していきます。
- 校種や学校規模による研修機会の格差や、充実期以降の個々のニーズへの対応は課題です。令和7年度は、全国教員研修プラットフォーム「Plant」を活用し、教職員の主体的な学びの支援と研修機会の提供に努めます。具体的には、教職員自らが「Plant」に掲載されている本市の教職員研修はもちろん、多様な研修コンテンツや本市独自のワークショップ、また、本市の多くの研修で希望受講が可能であること等も周知し、個々のニーズに応じた学びを促進していきます。

ICT を活用した児童生徒の不安や悩みの早期発見・早期対応に向けて

各学校では、日頃から子どもたちとの会話や行動観察、学校生活アンケート、面談等で、子どもたちの悩みや心身の状態を把握しています。子どもたちの悩みや不安等を把握することは、いじめの早期発見だけでなく、不登校の兆候を把握する面からも大切なことです。

令和7年度より鳥取市立の全小・中・義務教育学校では、これまでの各学校で行ってきている教職員の見立てを補助するツールとして、「今日の自分予報」をはじめとする一人一台端末を活用した取組を進めていきます。これは、子どもたちの心身の状態の変化への気づきや相談支援のきっかけづくりを増やすことを目的としています。



子どもたちが自分の不安や悩みに向き合うきっかけを作るとともに、教職員との関わりをさらに充実させることで、子どもたちへの支援につなげたいと思います。場合によっては教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、養護教諭など、それぞれの専門性をいかしながら、一人ひとりの子どもを「チーム学校」で見守り、支えていくことのできるように今後も取組を進めていきます。